



平成19年5月号

マックスシールプレス

P1 対談； 異理事長

P2 部署紹介 異今宮病院 院内秘書課
病気アラカルト 痔腫瘍

マックスシール対談

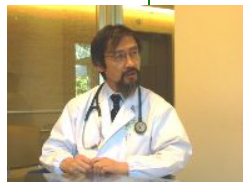


小田垣 医療法人マックスシール開業60周年を記念して、対談を企画しました。第1回目として、理事長である異孝彦先生にお話をお伺いしたいと思います。まずは60周年の節目を向かえて、お言葉を頂きます。

異 昨年、大きな目標の一つであった異今宮病院を箕面市に開院することができ、また、同時に開業60周年を迎えることができました。これも一重に地域の皆さま、地域の先生方、各消防隊や関係各機関の皆さまと、本当に多くの方々の暖かいご支援とご協力の賜物であると深く感謝しています。異今宮病院が開院できたことにより、異病院は急性期医療を担当し、異今宮病院は慢性期医療を担当していきます。老健施設を含めて、医療から介護における「循環型社会」を形成することが可能となりました。

小田垣 異今宮病院の開院によって、マックスシールの骨格がある程度形成されたと言う事ですね？

異 そうですね。これからは、これらの機能を十分に活用し、発揮できる環境・体制をより整えていくことがとても重要です。



小田垣 なるほど、環境と体制作りには重点を置くことは大切ですね。それを踏まえて、これからのマックスシールについて、何が必要なのでしょう？

異 ひとつは、救急医療のさらなる確立です。

現在、180件／月程度の救急搬送を受け入れていますが、安定的に200件程度を受け入れていくことが必要です。スタッフの教育、人材育成はもちろん、心血管系も含めて各種医療機器の充実等ハード面の強化も行っていきます。

そして、もうひとつは異今宮病院の運営の強化です。急性期の患者さまの状態が落ち着かれたときに、すみやかに異今宮病院での受け入れができる体制を確立する必要があります。異今宮病院での動きが停滞してしまうと法人の持つ機能が十分に発揮できなくなってしまいます。そういった意味では、異今宮病院は当法人の要でもあるのです。そのようなことも踏まえると、さらに今後は在宅・訪問部門の拡充が必要となります。施設には各々の収容人員が決まっています。限られたベッドをうまく循環させることができなければ停滞し、その機能が麻痺してしまいます。そうならないためにも、全体的な在宅部門の拡充をしていきます。当法人の機能を十分に発揮していくことこそ、当法人の理念である「地域社会に貢献する。」ということに繋がっていくものと考えています。

小田垣 最後に地域に根ざす「医療」への想いをお聞かせください。



異 「ゆりかごから墓場まで」ではないが、当法人に関わった方は最後まで診させていただきたいと思っています。手術をされた方がその後どうされているのか気にならない医師はいないと思います。関わった限りはその人に何かあればいつまでも診させていただく。医療を行う側の立場から言えば、それ以上に本望なことはないと思います。そのような姿勢が、地域の中で必要とされる存在であり続ける一つの要件でもあるでしょう。「当法人に関わった方は、何があっても診ます。」という心構えと、それができる医療を行っていきたく願っています。



【 異理事長と小田垣院内・地域連携室室長】

部署紹介(巽今宮病院)

院内秘書課 チーフマネージャー 三浦 千秋



マックスールプレス5月号に、巽今宮病院トップバッターとして部署紹介をさせていただく院内秘書課です。巽今宮病院が開院して1年が経ちましたが、私達、院内秘書課は、現在女性3名、男性1名が在籍し、総務・庶務・人事・経理・用度・営繕・搬送・管理等の業務を、法人石橋本部と日々連携を取りながら、クルクルと動き回って対応しております。

急性期病院である巽病院とは病院の性格も役割も大きく違う今宮で、全てが0からのスタートでしたが、経験してこそ初めて知ることができたことが数多くありました。

院内秘書課の業務は、職員一人ひとりの働きやすい環境を提供していくことはもちろんですが、もっとアングルを引いて見ると、私達の仕事は、病院や施設といった大きな舞台に立ち、それぞれの仕事をプロの役者として自分自身の担当する役割を演じてこそ、はじめて成り立つものだと思っています。

私達は、これからも、自分の隣にいる人に対して、相手が同僚であっても、部下であっても、患者さまであっても、業者さんであっても、外側に向けられるおもてなしだけでなく、すべての人を大切にする心を忘れずに、自分にできる最善のこをを行うこと、そこにあるお互いの役割を尊重し合い、敬意を払う姿勢が、そのまま患者さまやご家族さまを大切にする心へとつながっていくことを忘れないでいきたいと考えています。

今年、今宮に初めて桜の花が咲きました。カリンや姫リンゴの花もすくすくと育ち、庭園に植えられたハナミズキも白い花びらを5月の風になびかせています。今宮にお越しの際には、ぜひ可愛らしい花たちの姿をゆっくりとご覧になってください。

病気アラカルト

膵腫瘍

内科 井上医師

膵臓の腫瘍には膵炎などの炎症性疾患と腫瘍性疾患があります。膵腫瘍の有名なものとしては膵臓癌がありますが、その他にも膵嚢胞性疾患(嚢胞‘のうほう’とは内部に水分を有した袋)など多種にわたります。膵嚢胞性疾患は近年腹部画像診断(腹部エコー・CT・MRI)の進歩に伴い発見率が向上してきています。悪性度の低い腫瘍が多いと言われていますが中には癌化する症例もあります。基本的にはほとんど症状のない場合が多く、他の原因で腹部エコーやCTやMRI(MRCP)でたまたま発見される場合が大半を占めています。そのため、腹痛の患者さんだけでなく無症状でも年1回の検診目的で、まずは侵襲の少ない腹部USをお勧めいたします。

なお、当院では腹部US・CT・MRI(MRCP)の検査は随時可能(基本的には絶食などが必要)で外来受診時に予約になります。膵臓が気になる方はお気軽に消化器内科に相談してください。

※ MRCP: MRIを用いて胆管・膵管を立体的に撮影する検査です。

巽健康フォーラム

《 第3回 巽健康フォーラム 》

日時; 平成19年 6月 9日(土) 12:30~16:00頃

場所; 池田市民文化会館(池田市天神1-7-1)

内容に関しては後日掲示させていただきます。

